

第104期 株主通信

2018年4月1日 — 2019年3月31日

目次

株主の皆様へ	1
決算ハイライト	3
トピックス	5
会社情報／株式情報	6



「ACE-2020」の残り2年をしっかりと 仕上げていく所存です。

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。第104期(2019年3月期)の経営成績がまとまりましたので、ここにご報告申し上げます。今後も引き続きご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

代表取締役社長

朝倉 研二



当期の振り返りをお聞かせください。



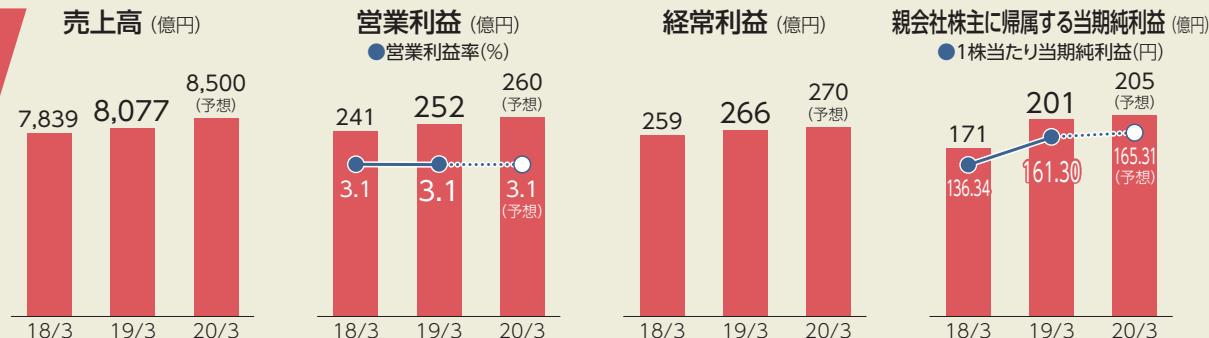
売上、各利益とも、過去最高を更新しました。

「ACE-2020」始動から3年が経過し、私自身が一番強く感じていることは、全ての変化のスピードが中期経営計画を策定した当初の想定よりも格段に速いということです。世界の合従連衡の動きは、化学業界においてもダイナミック且つスピーディに進んでいます。また、米国のシェールガスの圧倒的な存在感、中

国における環境規制など、NAGASEを取り巻く化学業界の環境は大きく変貌しています。

こうした中、2019年3月期の売上高は、8,077億5千万円(前期比3.0%増)、営業利益は252億2千万円(同4.6%増)、経常利益は266億4千万円(同2.5%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は201億3千万円(同17.2%増)と、前期に引き続き、いずれも過去最高を更新することができました。全セグメントが好調だった前期とは異なり、増益と減益のセグメントが混在しておりますが、注力領域のエレクトロニクスの

業績 レビュー



不調を他のセグメントで補う形となり、事業ポートフォリオの安定性という点において、NAGASE全体の外部環境への適応能力が向上していることを確認できたと思っています。

Q 2020年3月期の見通しはいかがですか？

A 引き続き、増収増益を目指します。

2020年3月期の業績見通しは、売上高8,500億円(前期比5.2%増)、営業利益260億円(同3.1%増)、経常利益270億円(同1.3%増)、親会社株主に帰属する当期純利益は205億円(同1.8%増)となる見通しです。

2020年3月期は「待たなしの勝負の年」と位置付けています。5GやAIといったパラダイムシフトを起こす技術革新により、次代の基盤技術が確立されると想定しており、これらの動きに取り残されないよう、いち早くビジネスをデザインすることが、次のNAGASEの成長期を迎えるために重要だと考えています。

※業績見通しの基礎となる為替レートは、1米ドル=110円を想定

Q 株主の皆様へメッセージをお願いします。

A ESGを経営の中核に据える取り組みを推進しております。

NAGASEでは2019年3月期を「ESG元年」と称し、グループ経営の中核にESGを浸透させるための地固めとして、初歩的な言葉の浸透活動をはじめとし、グループにおけるESG関連活動の総点検などを実施してきました。またSDGsの達成に向け、「水リスクへの対応」「気候変動対策」「生物多様性」などの課題にも徐々に取り組んでいます。長期の外部環境や「リスク」と「機会」の分析を行い、また、誰に、どのような価値提供をする企業集団なのかなど、議論を深めながら重要課題の設定を進めてまいります。

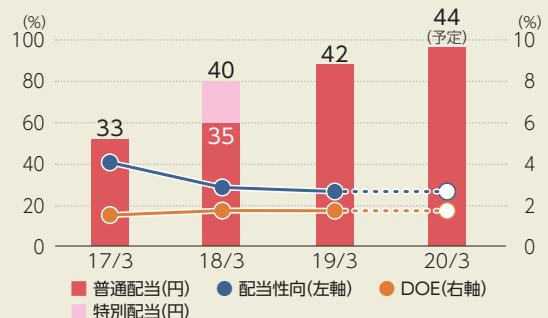
株主の皆様におかれましては、中長期の視点でNAGASEをみて頂き、一層のご理解とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

株主還元について

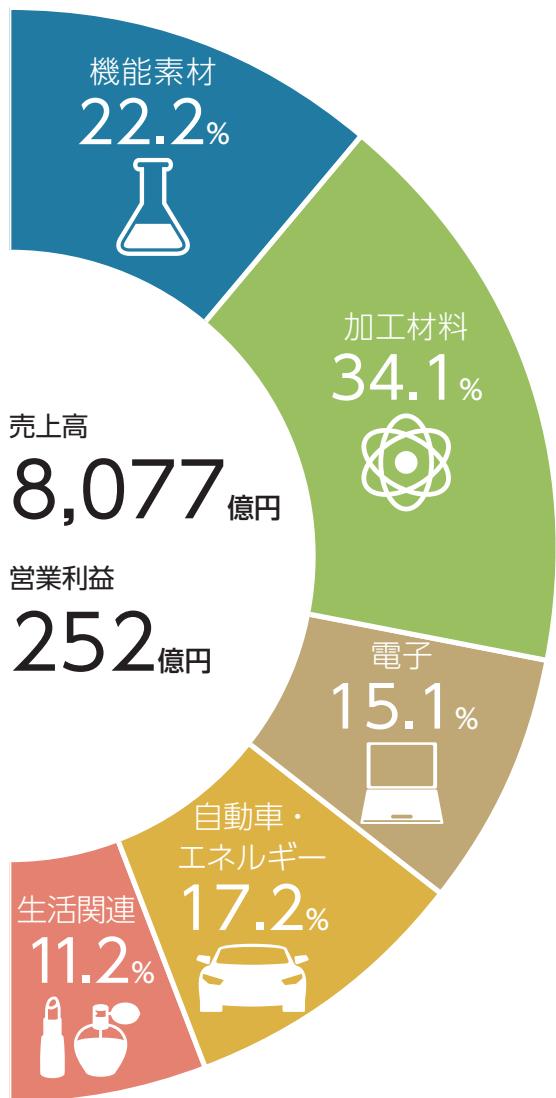
当社は、収益力の向上と企業体質の一層の充実強化を図り、連結業績連動を基礎とした、株主の皆様への安定配当を継続して行うことを基本方針としております。

2019年3月期の期末配当については、期初の見通しは1株当たり19円でしたが、業績や財務状況等を勘案し、5円増配し、1株当たり24円(中間配当金を含め42円)とさせて頂きました。

2020年3月期は、当期より2円増配の1株当たり44円(中間配当金22円、期末配当金22円)を予定しております。



セグメント別売上高構成比



■ ■ ■ ■ ■ 通期 □ □ □ □ □ 予想

売上高 **1,796** 億円 営業利益 **54** 億円

当期の状況

自動車生産台数の堅調な推移やナフサ価格の上昇等により塗料・ウレタン原料が増収、また、エレクトロニクスケミカル、樹脂原料・添加剤の国内売上が好調、更に前期買収したフィッツケム社の売上が通期で寄与し、国内外ともに増収。



売上高 **2,752** 億円 営業利益 **80** 億円

当期の状況

工業用、包装材料用の合成樹脂、顔料・添加剤および情報印刷関連材料等の売上が増加、更にOA・ゲーム機器業界向けの合成樹脂の販売も好調に推移し、国内外ともに増収。



売上高 **1,223** 億円 営業利益 **74** 億円

当期の状況

変性エポキシ樹脂関連は好調、また、半導体中間工程用の研磨剤関連ビジネスは堅調であったものの、フトリソ材料や装置関連、ディスプレイ関連部材は低調であったため、国内外ともに減収。



売上高 **1,392** 億円 営業利益 **30** 億円

当期の状況

国内、グレーターチャイナ、アセアンにおいて樹脂ビジネスが好調に推移し、更にカーエレクトロニクス関連部材の売上も好調であったため、全体として増収。



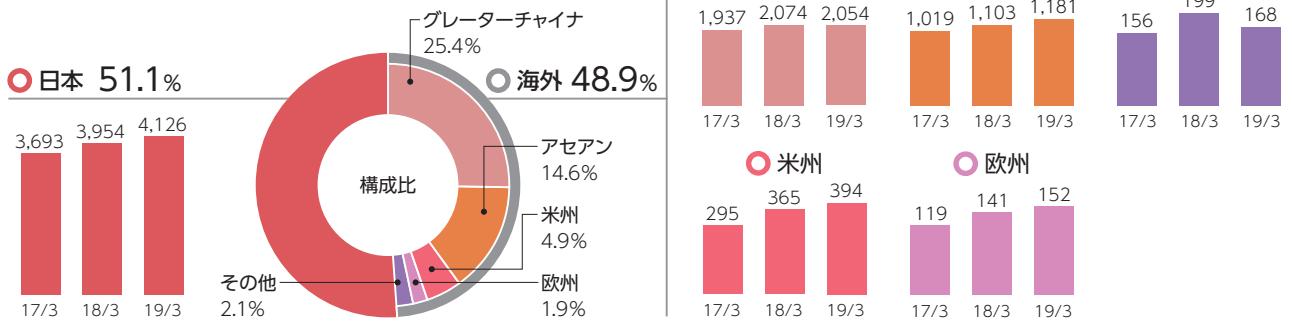
売上高 **907** 億円 営業利益 **46** 億円

当期の状況

食品素材分野、スキンケア・トイレタリー分野は、国内外ともに増収。医薬品原料・中間体、医用材料、製剤事業の売上も増加し、全体として増収。

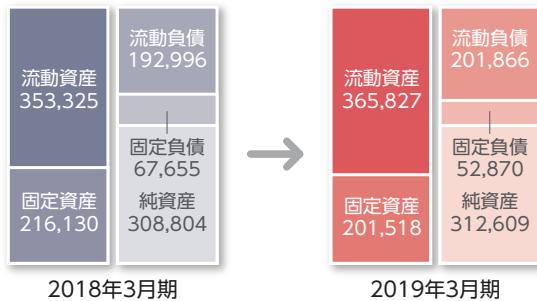


地域別売上高構成比 (億円)

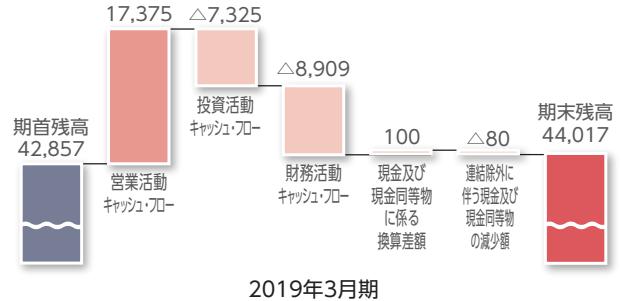


連結財務諸表サマリー (百万円)

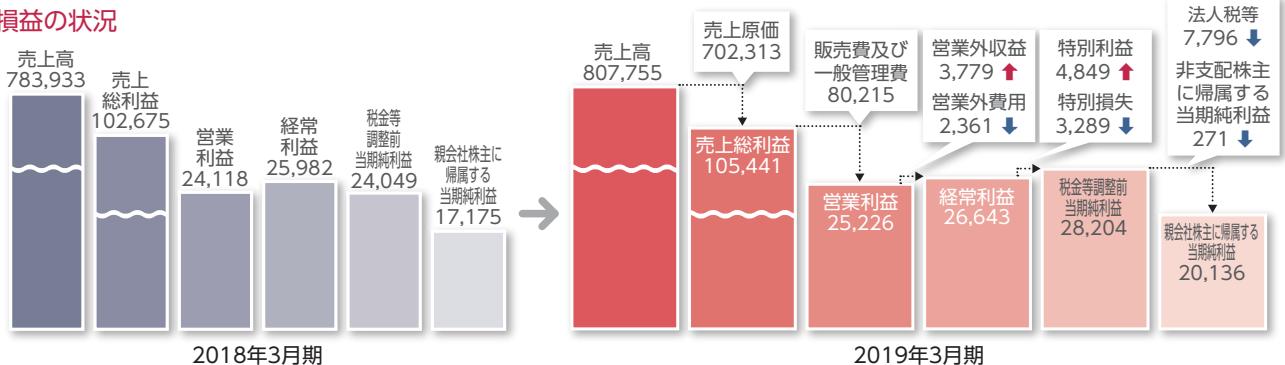
資産・負債・純資産の状況



キャッシュ・フローの状況



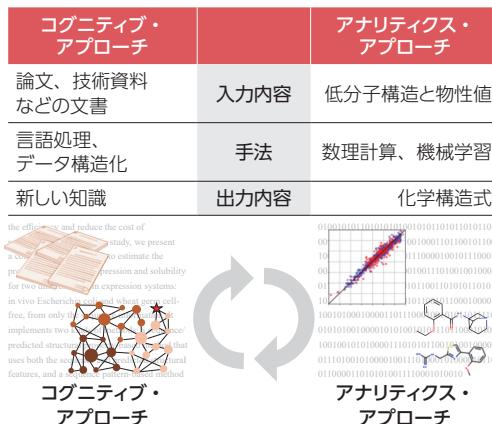
損益の状況



TOPICS
1

米国IBM社と共同で、AIを活用した 新素材発見プラットフォームの開発に着手

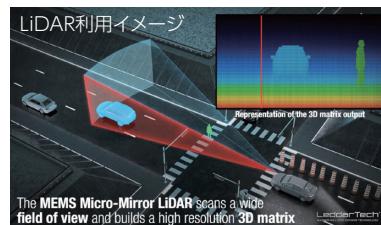
当社は、米国IBM社と共同でAIや高速データ処理システムを活用して新素材や代替材料を探索するマテリアルズインフォマティクス(MI)のプラットフォーム開発に着手します。従来の新素材開発は、実験や試作を繰り返す手法が一般的でしたが、MIの導入により、成果が得られるまでの開発コストや期間を大幅に短縮できるほか、人力では手に負えない革新的な新素材発見につながる可能性もあります。今回共同開発するプラットフォームは、AIが論文や実験データを読み込み、データを体系化したうえで、ユーザーが求める新素材を推測・提案する「コグニティブ・アプローチ」と、物質の化学構造と物性値の関連性を学習し、ユーザーが求める物質の化学構造式を示す「アナリティクス・アプローチ」の2種類を組み合わせ、新素材開発を大幅に加速します。



TOPICS
2

自動運転技術分野に本格参入

世界的に自動運転に対する期待が高まる中、当社は、自動運転向けセンサーシステム[LiDAR(ライダー)*1]関連技術2社と協業を開始しております。この協業にあたっては、LiDARをはじめ、産業・民生用3Dセンシングの光源に用いられる面発光レーザーのモジュールに高い技術力を有する米国トライルミナ社と代理店契約を、短・中・長距離のいずれのLiDARにも対応できる車載向けSoC製品(*2)に優れた技術力を持つカナダ・レーザーテック社と独占代理店契約に向けた覚書を締結しました。これを機に、自動運転の鍵となるセンサーおよび周辺デバイスに事業を拡げ、自動運転の到来を見据えた新たな事業を展開します。



- *1 LiDAR: 近赤外線が反射する往復時間を利用して人やモノなどの対象物との距離を検知する技術
- *2 SoC: System on Chip、ある動作に必要な機能を一つの半導体に集積する技術

TOPICS
3

プルランカプセルの市場拡大に向けた 長期パートナーシップ契約を締結、新工場建設にも着手

当社100%子会社の林原は、医療品、ヘルスケア、ライフサイエンス業界のリーディングサプライヤーであるスイスのロンザ社と、プルランカプセルの市場拡大に向け長期パートナーシップ契約を締結しました。林原のプルランはでん粉を自然発酵して作られる水溶性の高い多糖類で、食品原料やサプリメント用カプセル等の医薬品原料として使用されています。この提携を背景に、製品の安定供給はもとより、今後の需要増、新製品製造にも対応可能な新工場として、2020年9月竣工を目指し、岡山第二工場内に新プルラン・酵素棟(新P棟)の建設を開始しました。今後、長年のプルラン・酵素生産のノウハウに基づく最新の製造設備を導入し、製品の競争力をさらに強化します。



- (右) エラスモ・シュツァー (ロンザ社 コンシューマーヘルス プレジデント)
- (左) 安場直樹 (林原 代表取締役社長)

会社概要

商号	長瀬産業株式会社 NAGASE & CO., LTD.
創業	1832年(天保3年)6月18日
設立	1917年(大正6年)12月9日
資本金	9,699百万円
従業員	851名(連結6,143名)
主要な事業所	大阪本社、東京本社、名古屋支店、 ナガセR&Dセンター(兵庫県神戸市)、 ナガセアプリケーションワークショップ(兵庫県 尼崎市)

取締役・監査役 (2019年6月21日現在)

取締役

代表取締役会長	長瀬	洋
取締役副会長	長瀬	玲二
代表取締役社長	朝倉	研二
代表取締役	若林	市廊
取締役	池本	眞也
社外取締役	西	秀訓
社外取締役	家守	伸正

監査役

社外監査役(常勤)	白藤	信之
監査役	古川	方理
監査役	菅野	満
社外監査役	松井	巖

株式の状況

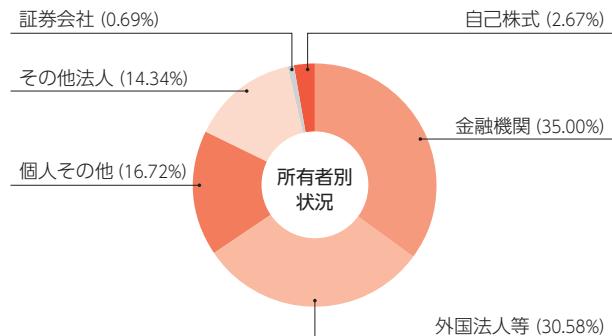
発行済株式の総数	127,408,285株
株主数	12,788名

大株主の状況

株主名	当社への 出資状況	
	持株数 (千株)	持株比率 (%)
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	7,290	5.88
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	6,319	5.10
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE SILCHESTER INTERNATIONAL INVESTORS INTERNATIONAL VALUE EQUITY TRUST	5,888	4.75
三井住友信託銀行株式会社	5,776	4.66
株式会社三井住友銀行	4,377	3.53
日本生命保険相互会社	3,589	2.89
長瀬 令子	3,541	2.86
NORTHERN TRUST CO. (AVFC) RE U.S. TAX EXEMPTED PENSION FUNDS	3,122	2.52
株式会社長瀬舜造	2,688	2.17
長瀬産業自社株投資会	2,414	1.95

※ 持株比率は自己株式(3,396,352株)を控除して計算しております。

所有者別株式分布状況



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月開催
基準日	定時株主総会 毎年3月31日 期末配当金 中間配当金 毎年9月30日 そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日

株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関
東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社

株主名簿管理人事務取扱場所
東京都千代田区丸の内一丁目4番1号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号
三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

(郵便物送付先) ☎ 0120-782-031

(照会先URL) <https://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>

公告方法
電子公告の方法により、当社ウェブサイトにて行います。ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

単元株式数
100株

株主に対する特典
毎年3月31日現在の株主名簿に記録された1単元以上保有の株主を対象に、保有期間に応じて、カタログギフトを贈呈。

上場証券取引所
東京証券取引所 市場第一部

● 株式に関する住所変更等のお届出およびご照会について

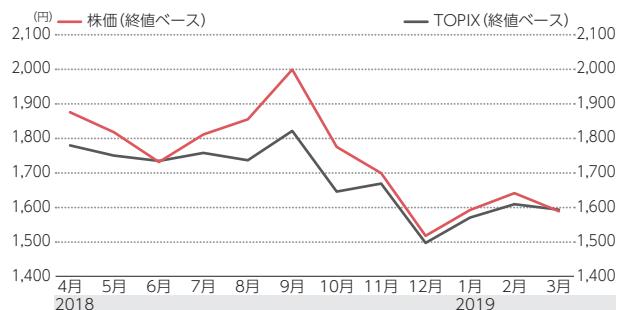
証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更等のお届出およびご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、上記の電話照会先にご連絡ください。

● 特別口座について

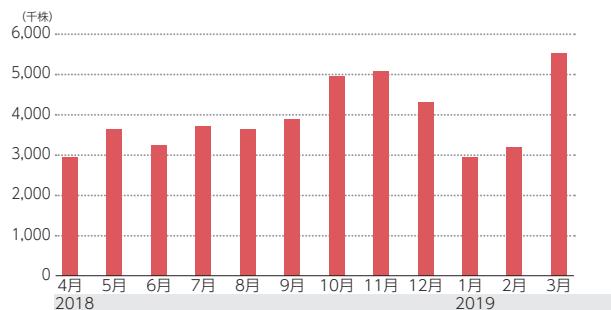
株券電子化前に「ほふり」(株式会社証券保管振替機構)を利用されていない株主様には、株主名簿管理人である上記の三井住友信託銀行株式会社に口座(特別口座といいます。)を開設いたしております。特別口座についてのご照会および住所変更等のお届出は、上記の電話照会先をお願いいたします。

株価／出来高の推移 (2018年4月1日～2019年3月31日)

株価の推移



株式売買高の推移



基本理念



NAGASE経営理念
社会の構成員たることを自覚し、誠実に正道を歩む活動により、社会が求める製品とサービスを提供し、会社の発展を通じて、社員の福祉の向上と社会への貢献に努める。

NAGASEビジョン
社員の一人ひとりが、日々の活動で「見つけ、育み、広げる」を体現することにより、「人々が快適に暮らせる安心・安全で温もりある社会」の実現に貢献する。

- NAGASEウェイ**
- 常に顧客指向であれ
 - 常に独創的な挑戦者であれ
 - 常にグループ力の活用を考えよ
 - 常にグローバルに考えローカルに行動せよ
 - 常にシステマティックに考えスピーディーに行動せよ

本冊子掲載情報の詳細については当社ウェブサイトをご参照ください

<https://www.nagase.co.jp/>

長瀬産業

検索

